



平成 17 年 10 月 24 日

各 位

会 社 名 不二サッシ株式会社
 代表者名 取締役社長 嵯 峨 明
 (コード番号 5940 東証第二部・福証)
 問合せ先 執行役員経理部長 宮武 憲二
 (TEL. 03-5745-1212)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成17年5月24日の決算発表時に公表した平成18年3月期の中間・通期の業績予想を下記のとおり修正させていただきます。

記

1. 平成18年3月期(個別)中間業績予想数値の修正(平成17年4月1日~平成17年9月30日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A) (平成17年5月24日発表)	36,100	480	390
今回修正予想(B)	35,800	140	330
増減額(B-A)	300	340	720
増減率(%)	0.8	70.8	-
前期(平成16年9月中間期)実績	35,770	135	281

2. 平成18年3月期(連結)中間業績予想数値の修正(平成17年4月1日~平成17年9月30日)

(単位:百万円、%)

	売上高	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A) (平成17年5月24日発表)	56,000	270	150
今回修正予想(B)	54,600	10	540
増減額(B-A)	1,400	260	690
増減率(%)	2.5	96.3	-
前期(平成16年9月中間期)実績	56,215	139	133

3. 中間業績予想の修正理由

アルミ建材業界におきましては、アルミ地金等原材料の高騰に加えて、建設投資が低調に推移する中でアルミ建材品の需要低迷が続いておりますが、特に、当社の主力であるビル用建材品市場においては需要低迷下における企業間競争の激化により受注価格が低下しております。

このような厳しい市場環境のもと、個別（当社）の業績につきましては、売上高は前回予想に比べて300百万円(0.8%)減の35,800百万円と、前年同期比ほぼ横ばいの見込みであります。

また、損益面ではビル用建材品の販売価格低下の影響を受けて経常利益は前回予想に比べて340百万円減少しましたが、全社を挙げたコストリダクションへの取り組みにより140百万円の利益を確保できる見込みであります。一方、子会社の合理化のための土地売却に伴い汚染土壌処理費等の発生により特別損益の部で530百万円の損失を計上したことから、中間純損失は330百万円と、前回予想に比べて720百万円の減少になる見込みであります。

連結の業績につきましては、主に個別（当社）の業績予想修正に伴い、前回予想に比べて売上高は1,400百万円(2.5%)減の54,600百万円、経常利益は260百万円減の10百万円、中間純損失は690百万円減の540百万円となる見込みであります。

4. 平成18年3月期（個別）通期業績予想数値の修正（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

（単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A） （平成17年5月24日発表）	82,000	1,900	1,700
今回修正予想（B）	81,000	1,200	1,000
増減額（B - A）	1,000	700	700
増減率（％）	1.2	36.8	41.2
前期（平成17年3月通期）実績	80,995	1,642	1,437

5. 平成18年3月期（連結）通期業績予想数値の修正（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

（単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A） （平成17年5月24日発表）	123,000	2,200	1,800
今回修正予想（B）	123,000	1,500	1,000
増減額（B - A）	0	700	800
増減率（％）	0.0	31.8	44.4
前期（平成17年3月通期）実績	122,878	1,904	1,743

6. 通期業績予想の修正理由

下半期も引き続き厳しい市場環境が予想されますが、当社といたしましては、受注価格の低下に歯止めをかける契約適正化の推進や更なる合理化・総コストの削減などを図る一方、引き続き顧客ニーズ・市場動向に合わせた新商品の開発による販売促進、環境事業・形材外販事業等非サッシ事業分野の拡大を図るなど、売上増強・収益向上を強力に推進してまいります。中間期までの業績を勘案し、上記のとおり個別および連結の業績予想を修正いたします。

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後発生する様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上